

令和3事業年度に係る自己点検・評価書

令和4年11月24日
国立大学法人兵庫教育大学

1. 本自己点検・評価書について

本学では、年度計画を毎年度策定し、学校教育法第109条第1項に定められている自己点検・評価として、評価委員会が年間を通して「国立大学法人兵庫教育大学点検・評価規程」及び「兵庫教育大学自己点検・評価実施要項」に基づき、計画の進捗状況を評価しています。

また、これに加えて、令和2年度から大学運営及び教育研究活動に係る自己点検・評価も実施しています。

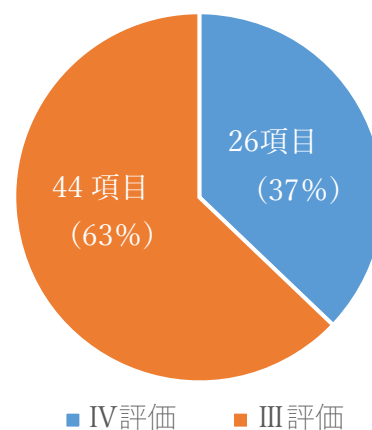
このダイジェスト版は、自己点検・評価結果のうち重要な内容をわかりやすくまとめ、本学の教育・研究・社会連携等に関する情報を積極的に地域・社会へ説明するものです。

2. 年度計画に係る自己点検・評価結果の概要について

令和3年度は、年度計画70項目を設定して実施しました。それぞれについて、4段階（Ⅳ：年度計画を上回って実施している。Ⅲ：年度計画を十分に実施している。Ⅱ：年度計画を十分には実施していない。Ⅰ：年度計画を実施していない。）で評価を行いました。

この結果、Ⅳ評価は26項目、Ⅲ評価は44項目となり、Ⅰ、Ⅱの評価はありませんでした。

このことから、年度計画を順調に実施したと考えます。



年度計画の自己点検・評価結果
(全70項目)

3. 特筆すべき年度計画の取組について（IV評価であった取組の一例）

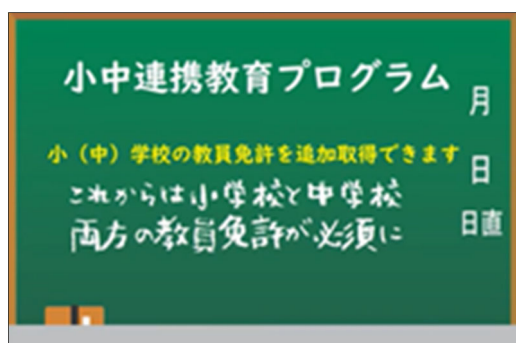
① 小中連携教育プログラム開設に向けて（年度計画 07・19・20）

義務教育学校や小中一貫型小・中学校の設置が急速に進められていることにより、義務教育9年間を見通した児童生徒の指導ができる教員が求められていることから、令和4年度より「小中連携教育プログラム※」を開設します。

令和3年度は、プログラム受講者の募集を開始し、授業科目の整備等を行いました。

このプログラムを受講することで、修士課程や専門職学位課程の学生は小学校教諭2種免許状又は中学校教諭2種免許状（国語、数学、理科、社会、英語いずれかの教科）の所要資格を取得できます。

※課程・コースによって、入学時に所持が必要な免許状等の条件があります。



YouTube「【兵庫教育大学 WEB 大学院説明会】
兵庫教育大学大学院小中連携教育プログラム」
<https://youtu.be/h2mlHtwezjg>

② オンラインを活用した授業の実施とオンライン教育支援室の開設

（年度計画 13）

学部、修士課程及び専門職学位課程ともに、学生の多様な学びのニーズ等に応えるため、対面授業に加えて、教育支援システム等を用いた非同期型オンライン授業、ウェブ会議システム等を用いた同期型オンライン授業や学生が対面授業又はオンライン授業を選択できるハイフレックス型授業を実施しました。



オンライン教育支援室の様子

また、オンライン授業（非同期型）の教材作成を行う教員の支援等を目的として、「オンライン教育支援室」を開設しました。開設にあたっては、教員へのニーズ調査の結果を踏まえて検討を行い、同室の使用ルールを定め、オンライン授業（非同期型）の撮影・編集等に関する研修会を行うなど、サポート体制を整えました。

③ 連合大学院における共同研究プロジェクトの推進（年度計画 24）

博士課程では、連合大学院の利点を活かして、構成大学（兵庫教育大学、上越教育大学、岐阜大学、滋賀大学、岡山大学、鳴門教育大学の6大学）の教員が所属大学や専門領域の枠を越え、プロジェクト型の共同研究を実施しています。この共同研究プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）は、研究期間を3年間とし、その期間における研究成果を論文や研究集会等により社会に発信するほか、博士課程の学生を積極的にプロジェクトへ参加させ、研究者としての研究遂行能力を育成しています。

令和3年度は4件のプロジェクトを実施し、同年度で研究期間を終えた1件については、研究成果に関する書籍を3年間で3冊刊行するなど、研究成果を社会へ広く発信しています。

また、より多くの教育現場等へ研究成果を還元するため、これまで実施したプロジェクトの成果報告の一部を連合大学院ウェブサイトや本学学術情報リポジトリに掲載しました。

連合研究科共同研究プロジェクト研究成果報告書			
プロジェクト の名称	近年の自然災害を踏まえた防災、減災教育と学校危機管理の構築		
研究 期 間	平成31年4月1日～令和4年3月31日	プロジェクト記号	X
チーム構成員の氏名・職名等・所属（配属）大学（◎：チームリーダー）			
◎藤岡達也・教授・滋賀大学	村田守・教授・鳴門教育大学（R3.3月まで）		
百水裕也・副学長・兵庫教育大学	加藤内蔵進・教授・岡山大学		
阪根健二・教授・鳴門教育大学	宮下敏恵・教授・上越教育大学		
阪上弘彬・助教・兵庫教育大学（R3.9月まで）	山縣耕太郎・教授・上越教育大学（R3.4月より）		
佐藤真太郎・博士院生・滋賀大学 ↑	堀道雄・博士院生・滋賀大学		
行壽浩司・博士院生・兵庫教育大学	曾川剛志・博士院生・兵庫教育大学		
川真田早苗・教授・北陸学院大学 ↑	渋谷友和・准教授・奈良学園大学 ↑		
↑ プロジェクト中に教諭（博士）から異動			
プロジェクト全体の研究経過及び研究成果			
・3年間における研究活動（研究会開催、調査活動、研究成果の公表等）の概況や個々の分担研究の特筆すべき事項等について、簡潔に箇条書きでお書きください。			
1. 研究会開催 全10回開催。ただし、コロナ禍のため、第1回（神戸）、第2回（鳴門）第3回（岡山）、第4回（神戸）、第10回（上越）以外の5回はオンラインで開催。			

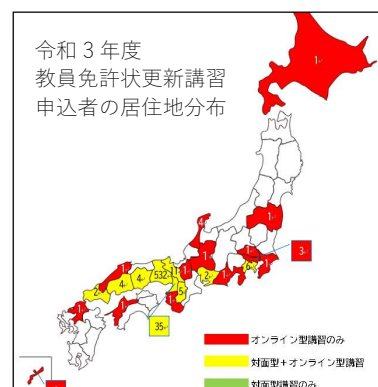
共同研究プロジェクトX研究成果報告書

https://hyogo-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=16629&file_id=17&file_no=1

④ オンラインを利用した研修プログラム等の全国展開（年度計画 29・31・52）

特別支援教育を基盤としたこれからの学校づくりについて考えていくために、学校経営と関連する多様な領域（目指す子ども像、ICT、カリキュラム編成、働き方改革など）を組み合わせで発想するという姿勢を学び、構想力を磨くことを目的とする「特別支援教育アドバンスセミナー」と「教員免許状更新講習」の一部をオンラインで開催しました。

特別支援教育アドバンスセミナーは 12 都道府県から、教員免許状更新講習は 23 都道府県（昨年度は 7 府県※対面のみ）から受講者を募ることができ、本学の研修プログラム等を全国に展開・提供できました。

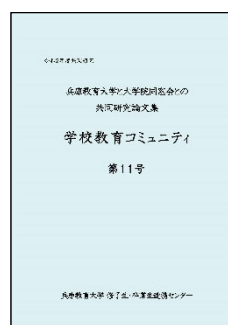


⑤ 修了生による研究活動の活性化（年度計画 34）

学校現場の課題解決や本学の実践的な教育研究の進展に寄与することを目的に、本学と本学大学院同窓会が連携して共同研究を実施しています。この共同研究は、大学院同窓会会員である修了生と本学教員等で構成し、1 年間の研究期間に最大 10 万円の研究費が支給されます。

令和 3 年度には、12 件の共同研究を実施し、合計 13 人の修了生と延べ 16 人の大学教員が共同で研究を進めました。それぞれの研究成果は、共同研究論文集「学校教育コミュニティ第 12 号」として取りまとめ、発行する予定です。

このほか、修了生や修了生を構成員とする団体の優れた教育実践研究活動等を表彰する制度を設けており、修了生を対象に募集した教育実践研究論文 14 件の中から、5 件を奨励賞として表彰しました。この奨励賞を受賞した 5 件に、優秀と判断した論文 2 件を加えて、「教育実践研究論文集 vol.3」として発行しました。教育実践研究論文の応募件数が昨年度比 1.8 倍となるなど、昨年度と比較して修了生による研究活動は活性化しています。

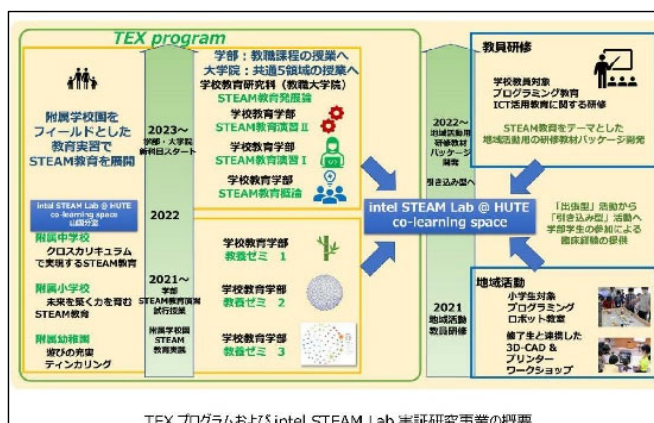


左：「学校教育コミュニティ第 11 号」

右：「教育実践研究論文集 vol.3」

⑥ STEAM 教育の推進（年度計画 49・52）

教員養成・研修高度化センター内の Society5.0 や STEAM 教育等の先端教育研究に関する調査・研究を行う先端教育研究開発コアに 12 の各種研究開発チームを設置し、それぞれ研究開発を行いました（チーム数は令和 3 年度末時点）。この研究開発チームの 1 つである STEAM 教育検討チームで



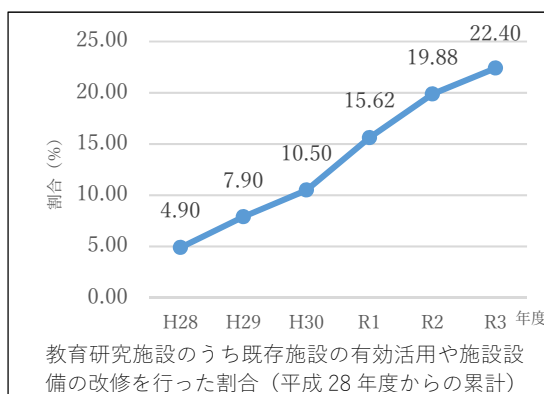
では、STEAM 教育の実践者や学校において STEAM 教育を推進するリーダー教員の養成を目的とした人材育成カリキュラムを開発しました。STEAM 教育についての理解を深め、今後の教員養成における STEAM 教育の可能性を検討することを目的とした CReATE Seminar において、学生や教職員を対象に「総合的な学習の時間と STEAM 教育」と題した研修を実施しました。

また、令和 2 年度から大学と附属学校園が一体となった STEAM 教育の研究が本格化しており、令和 3 年度にはインテル株式会社「STEAM Lab 実証研究校」に採択されました。これに伴い、令和 4 年度からは大学、附属小学校及び中学校それぞれに STEAM Lab を設置して、附属学校園における STEAM 教育を推進するとともに、教育実習においても、学生の STEAM 教育実践力（ファシリテーション力、教材開発力、題材構成力、授業力、カリキュラム構成力等）を育成していく予定です。

このほか、近隣市とも STEAM 教育の推進に向けた連携・協働を行っており、兵庫県加西市と STEAM 教育の開発や単元デザインの作成を行うとともに、同市教育委員会が主催する STEAM 教育に関するイベントに参画しました。

⑦ 戦略的な施設マネジメント（年度計画 64）

本学創設の趣旨・目的やミッション・ビジョン等に基づき、長期的視点に立った計画的な整備を行うために策定したキャンパスマスタープラン等に基づき、教育研究活動への貢献を目的として、研究スペースの追加を希望する教員等へ空き部屋を貸し出すなど、既存施設を有効活用しました。



また、現在ある建物の多くが開学時に建設されており、ライフライン等の老朽化も著しいことから、附属小学校校舎や附属図書館の外壁等を改修しました。このほか、エネルギー消費量や維持管理費削減のため、空調設備等の改修も行いました。

これらの取組により、平成28年度から令和3年度までの6年間で既存施設の有効活用や施設設備の改修に伴う面積は、教育研究施設の22.4%に上りました。改修等を順次実施して、教育・研究・学生生活環境基盤の強化や利用者へのサービス向上等を図り、安心・安全で快適なエコキャンパスの実現を目指しています。

（令和3年度既存施設の有効活用例）

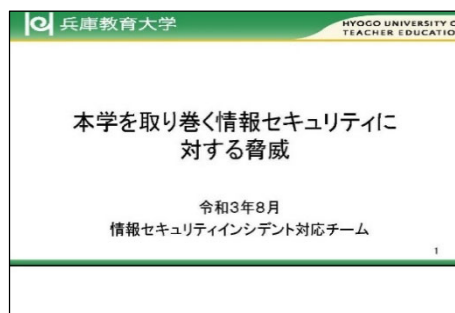
本学の空き部屋の一室を活用し、兵庫県北播磨県民局と連携して「兵庫教育大学地域教材開発室」を開設しました。

これは、本学の地元東条川疎水に関する施設や地域にある身近な素材を活かした教材の開発や提供を推進し、教員による地域教材の収集・情報交換の場となることを目的としており、多くの教員による利用が期待されます。



⑧ 情報セキュリティレベルの向上（年度計画 70）

令和2年度に実施した情報セキュリティ研修や自己点検等の実施結果を踏まえ研修内容を改善し、「令和3年度国立大学法人兵庫教育大学情報セキュリティ研修実施計画」に基づき、学生や教職員等の対象にあわせた情報セキュリティ研修を実施しました（全教職員等を対象とした情報セキュリティ研修会では、研修受講率100%を達成）。研修後に実施した理解度アンケートや自己点検の結果から、大学全体の情報セキュリティレベルの向上を確認しました。



また、全教職員等を対象とした情報セキュリティに関する自己点検や情報セキュリティ監査を実施し、各人・各組織に実施できていない情報セキュリティ対策を認識させ、改善を促すとともに、これらの結果を把握・分析し、大学全体の情報セキュリティレベルを確認することにより、今後の情報セキュリティ対策に反映させることとしました。

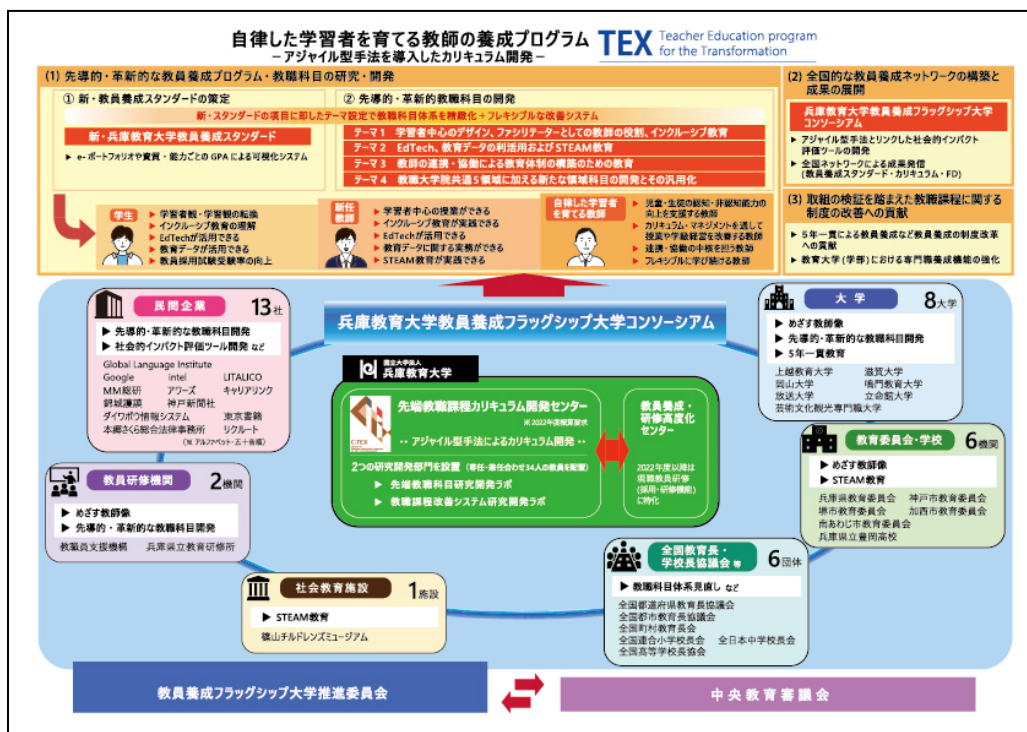
さらに、キャンパス間接続、対外接続及び学内基幹ネットワークを10Gbps化したことにより、ネットワークの安定的な運用が可能となり、可用性が向上しました。

⑨ 教員養成フラッグシップ大学に指定（年度計画 52）

教員養成フラッグシップ大学（大学からの申請に基づき、文部科学大臣が指定。指定された大学は、「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくための牽引役となることが求められる。）の申請に向けて、文部科学省からの委託事業「令和3年度教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」において「多機関連携・協働による学習観・授業観の転換を担う教師の育成に対応した先導的教職科目の開発研究」をテーマに、国私立大学や民間企業等と協働し、先端技術・データ活用、STEAM教育やインクルーシブ教育等の新しい課題に対応した先導的な教職科目の開発研究に取り組み、科目案を作成しました。

この取組を踏まえて、教員養成フラッグシップ大学への申請を行い、令和4年3月9日に文部科学大臣から、教員養成フラッグシップ大学の指定を受けました。

令和4年度からは、国公立大学、本学附属学校園・県内公立学校、教育委員会や民間企業等と連携しながら、教師教育のトップランナーとしての様々な取組を基盤として、柔軟で高度な課題解決力を持ち、自律した学習者を育てることができる教師の養成を先導し、教員養成の在り方自体の変革を牽引すべく取り組んでいきます。



【採択テーマ】

「自律した学習者を育てる教師の養成プログラム TEX (Teacher Education program for the Transformation) - アジャイル型手法を導入したカリキュラム開発 -」

4. 大学運営及び教育研究活動に係る自己点検・評価結果の概要について

令和3年度は、本学に設置する全課程（学校教育教員養成課程、修士課程、専門職学位課程、博士課程）において、40の点検項目で実施しました。

この結果、概ね評価基準を満たしていましたが、一部課程において実施できていない点検項目があることを確認しました。

なお、実施できていなかった点検項目については、各実施組織において実施に向けた検討を進めています。

（各課程において実施できていなかった点検項目）

	実施できていなかった点検項目
学校教育教員養成課程	(なし)
修士課程	(教育 24) 修了時における学生からの意見聴取による学修成果の把握・確認
専門職学位課程	(教育 24) 修了時における学生からの意見聴取による学修成果の把握・確認
博士課程	(教育 24) 修了時における学生からの意見聴取による学修成果の把握・確認
	(教育 25) 修了生からの意見聴取による学修成果の把握・確認
	(教育 26) 就職先等からの意見聴取による学修成果の把握・確認